

## インターンシップ体験記 (海外インターンシップの場合は英語で記入)

「このインターンシップが面白い！」この話は、インターンシップの間何回も言いた。今でも思い出しても同じ気持ちであった。自由でアイデアを出せる、やりたいこととやるべきことが重なっている、いろいろな知識をもらえる、上司が優しいである。こういう環境にでインターンシップすることは、面白くないわけがないでしょう！しかも一番大切なのは、このインターンシップの間、問題を解ける、仕事をやるの方法は、色々見つけました。

3ヶ月のインターンシップは国内短期インターンシップと言われるが、自分に対して充実、有意義な3ヶ月であった。留学生なので、「海外インターン」の雰囲気も体験したかもしれない。この間、「問題意識」の意義をもう一度しみじみ感じました。

「能力があれば何でも解ける」は僕を含めて多めの人たちが考えていた観点でしたが、字面から見るともう詐称であった。まず「解ける」前に必ず問題がある。「何が問題？」が分からないと、能力を発揮し尽くした結果が無駄になる。「0は前に1がないと何個も0である」みたいに、まず課題に対して、解けるべきの問題を見つけて、問題を解決する方法を考えることが一番重要だ。これは、インターンシップから一番学んだことです。

ドローンのプロジェクトが始まる時、自分の研究分野と重なる部分が多いので、やりやすいと思った。始めるの段階、数多くの小さい問題を解けました。しかし、この過程に、だんだん最終の目標を忘れた。いっぱい仕事をやったのに、全体に対して役立つことがほとんどない。例えば、無線LANでドローンを飛ばすようになったが、自分は、「これができたら何ができる？」をぜんぜん考えなかった。全体の問題との繋がりを意識しないと、「物語」になりません。

上司は、僕のこの問題を見つけた。「ちゃんと問題をブレイクダウンして、1つ1つ対応する」を言いた。簡単なアドバイスであったが、実際やる時は難しかった。職場のタスクは、時間の制限がある。有限の時間に問題を解決するが必要。自分の問題解決力はまた向上しないといけないを感じました。

このインターンシップに介して、ドローン分野のHWから制御の知識を得た。研究課題にたいして、どうやって客観的現状を分析して、次のステップを選ぶには大切である。難しいの問題に対して、回避すべきか、攻めるべきか、その決断は分析の上でやったことを知りました。

正直というと、毎日7時起きて、夜7時帰った後研究を続ける3ヶ月はつらかった。身体的でも、精神的でもつらい。自分は、まるで企業と共に呼吸している。成長したのは、どのつらさがあっても研究をやり続けるの精神—「生き残る」の力；できなかったのは、自分の成果を本物の価値に変換するの過程。やはり3ヶ月は短いと思うけど、自分のまた2年の研究生活がどうやって歩く、卒業後はどうやって成長するか、見直しなければならない。

インターンシップの間、色々な人たちとコミュニケーションを取った。職場に、皆なが忙しいので、有効なコミュニケーションを取ることが大切。できるだけ分かりやすいの方法（伝える対象より）で内容を伝えることが、企業に入った後気づいたのことである。

一つプロジェクトとしては、一人の力でできないこと。グループの中の人々は、各自の役割がある。ゆえに、より効率的仕事をするには、有効なコミュニケーションをベースにしたもの。実験環境を設置する時、環境を設置する責任者とコミュニケーションを取らなかった。結局、その進捗が遅くなって、全体のペースが遅くなった。もしその時ちゃんと確認したら、プロジェクトの進捗がもっと速くなると思います。

(つづく)

インターンシップ体験記 (続き)

ですが、企業の中に、色々自分の研究室にできないこともできた。同僚さんは優しいし、色々な経験を僕に教えてた。印象一番深いなのは、毎日のランチの時、同僚と話し合っ、前に全く異なるの観点をもらいました。非常に面白くて、色々な場面に参考できると思います。

グループの中だけじゃなくで、職場に働くと、部門の全体像、AI 産業の業界の状況もすこし触れることもできる。これも研究室に感じれないことである。働くのこの間、同じ大学の先輩もいるし、別の大学の入社3~5年ぐらいの若い先輩もめっちゃいます。皆ながすごいと思います。自分も、早めにそういう人になりたい。

最後、すべての僕を助けた人たちに感謝を言いたい。あなたたちのかけて、この3ヶ月のインターンシップが有意義、印象的になった。どうもありがとうございました。